

情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波有効利用方策委員会

VHF / UHF 帯電波有効利用作業班

UHF 帯共用検討グループ（第 1 回）議事要旨

1 日時

平成 19 年 3 月 12 日（月）18 時 00 分～18 時 45 分

2 場所

総務省 401 会議室

3 出席者（敬称略）

（構成員）

秋山（トヨタ）、尾崎（ドコモ）、岩男（KDDI）、中野（日立：小山構成員代理）、寺本（自工会：柿原構成員代理）、熊谷（富士通）、坂本（イー・モバイル）、鈴木（日本自動車研究所：関構成員代理）、竹井（インテル）、田中（ソパ・ソクモバイル）、白木（沖：徳田構成員代理）、中田（ア化°モバイル）、杉浦（デンソー：難波構成員代理）、守（富士通）、山崎（モトローラ）、山田（新交通管理システム協会）、米山（NEC）、山本（NEC）

（総務省）

小泉（総務省）、大野（総務省）

4 議題

(1) UHF 帯共用検討グループに課せられた課題の検討について

～ 電気通信と ITS の共用可能性の検討 ～

(2) その他

5 議事要旨

(1) UHF 帯共用検討グループに課せられた課題の検討について以下の通り確認された。

尾崎代表より、代表決定の経緯説明と再確認が行われ、了承された。  
委員会および作業班が UHF 帯共用検討グループに示した課題として「電気通信と ITS の共用可能性」であることが確認された。また、共用可能性については、適宜電気通信グループ及び ITS グループと協調することが確認された。

## (2) 電気通信と ITS の共用可能性の検討について、議論が行われた。

尾崎代表より、資料 2022-VU 作-UHFad1-1 について説明された。

岩男構成員より、資料 2022-VU 作-UHFad1-2 について説明された。

尾崎代表より、ITS グループに対し、具体的なパラメータは未定との前提で ITS 基地局の設置形態はどのように考えるべきか質問があった。秋山構成員より、信号機だけではなく、交差点をカバーするためにさらに高い位置に設置される可能性もあるものの、具体的には未定であることが説明された。その結果、電気通信側も含め、具体的なパラメータ選定時の議論とすることが確認された。

尾崎代表より、ITS グループに対し、既存の ITS との融合の可能性について質問があった。秋山構成員より、光ビーコン等との組み合わせは可能性はあるが、通信システムとしては既存システムとは別であることが説明された。本項目については ITS グループの検討課題であることから、本アドホックでは詳細議論は避けることとなった。

寺本氏（自工会：柿原構成員代理）より、電気通信グループに対し、ガードバンドの検討に当たっては、電気通信の FDD と TDD についても資料 2022-VU 作-UHFad1-2 に相当する検討パターンが生じるのか確認された。

尾崎代表より、FDD と TDD についても技術的な観点から同様な検討が最終的には必要だが、現時点で電気通信用途として考えていることが説明された。

尾崎代表より、800MHz 帯再編に係る検討では、既存システムが比較的狭帯域のシステムとのガードバンドが示されているものの、広帯域システムでは漏洩電力が大きくなる等、更なるガードバンドの必要性が懸念されるため、ITS システムの帯域幅としてどの程度の想定があるか質問された。現時点では、具体的な値はわからないことから、第 1 回会合内での議論は行わないこととなった。

事務局より、アドホックの検討課題に関する認識についてコメントされた。電気通信については過去の情通審の答申を尊重することは委員会でも確認され、ITS については出合い頭の衝突回避のために UHF 帯が必要との認識となっており、従って、車車間の検討である。ITS は答申にある携帯電話用として必要とされる帯域から確保する必要がある。そのため、電気通信として ITS 用にどの程度融通できるか、ITS としてどの程度必要なおかが議論となる。ガードバンドを含んだ必要帯域を議論すべきである。結論の導き方は、各グループで持ち帰ることとすべきである。ITS としては、委員会等で携帯電話としては UHF 帯だけでは必要周波数を確保できないことが認知されており、また、過去の情通審答申で携帯電話用とされてい

る帯域の中から、いかに ITS として使用できるようにするかを明確に説明する必要がある。放送や自営通信は VHF 帯となっているにも係らず、ITS を UHF 帯で検討する必要性を説明する必要がある。コメントを受け、ITS は UHF 帯を使用するための理由を説明し、電気通信は ITS に対してどの程度共用できるかを検討していくこととなった。

尾崎代表より、次回会合に向けた検討項目として、全構成員に対し共用可能性に対する更なる課題の有無の検討、ITS グループに対し ITS の必要帯域幅の検討、ITS グループ AH に対し段階的な周波数の拡張と安全率と事故減少率の関係に関する検討結果の提示、電気通信グループに対し ITS とどの程度の帯域幅を共用できるかの検討が示された。

### (3) その他

尾崎代表より、資料 2022-VU 作-電 ad1-3 について説明された。次回会合は 3/22 夕方に開催されることとなった。詳細は事務局と FDD、TDD、ITS 代表が調整し、別途連絡することとなった。